



KAWASAKI Z1

OWNER NAME : ナカムラ ユウジンさん (58 歳)

# 絶版車に魅せられて

絶版バイクに乗るキツカケは、十人十色でストーリーがある。好きなメーカー、購入する車種にも人それぞれ理由が存在する。絶版車の何に魅せられて、どんな魅力を感じているのか？ そんなオーナー達が愛車に込めた熱き想いをクロスアップする。



愛車の青玉Z1は純正オリジナルにコダワリ、陽光に照らされて美しく輝く。前後カメラを搭載したライディングレコーダー、USB充電のスマホホルダーも装備し、快適なツーリングを楽しんでいる。

## ライダーズ・カフェを来年2月にオープン予定

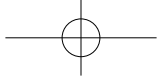
20代でZ2を3台乗り継ぎ3年前にリターンライダー

音楽はキャロルやクルース、映画は『イージーライダー』や『マッドマックス』に影響を受けた世代のナカムラさん。若かりし20代半ばまでにカワサキZ2初期の赤玉、緑、タイガリーエロと色違い3台を乗り継いだ。20代後半から30代後半までは仕事が忙しく、それ以降は55歳までブランド期間が空いてしまった。「3年前にリターンライダーで、あの頃のZシリーズに戻って来ました。昔はZ2に乗ったけど、やっぱりZ1に憧れがあった」と話す。初めてウエマツ東京本店で

探し、純正オリジナルで整備済みの青玉に出会えた。1週間で契約を決めて購入し、アフターサービスにも厚い信頼を置く。今後はKZ1000MKIIにも乗りたい、と絶版バイク熱が再燃している。聞けば彼の地元である八王子・高尾に、ライダーズ・カフェ「CHOUCHOU / シュシュ」を来年2月オープンする予定だと教えてくれた。店名は、小さくて可愛い、という意味のフランス語で、ハンバーガーが食べられるカフェを準備中とのこと。西東京へツーリングに出かける時は、ぜひ立ち寄ってZ談議に花を咲かせてみては？







## 憧れたタイガー外装のZ2仕様にカスタム

16歳から生涯バイク乗り  
Z1を所有し20年のベテラン

小1の頃に'69年の晴海モーターショーで、CB750KOを見た荒井さんはバイクに憧れた。父親がCD125やカブに乗り、近所の兄ちゃん達もバイク乗りだった影響を受けて育った。16歳でバイク免許を取りGS400、Z400リミテッド、バンディット、NSR250(89・90)、CBR900RR、ゼファー1100・750と乗り継いで来た。

「ゼファー750のZ2仕様に乗ったら、信号待ちで隣に本物が止まって、複雑な心境になりましたね(笑)」と振り返る。まだウエマツ東京本店が日野にあった時代から、長い付き合いが始まった。このZ1は35歳の頃に購入し、20年間ノントラブルだという。愛車Z1はイジるのが当たり前の時代からカスタムを重ねているので、現在は敢えてのZ2仕様。リアの三角フレームを残し、ゼファー750の足回りを移植するなど、高速・峠も乗りやすいカッコ良さを追求する。

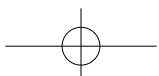
Z1の他にもカワサキ250SS、通勤用のアドレス125と3台持ち。今後はゼファー750の足回りを移植し、500SSエグリ改にも乗りたくて生涯バイク乗りを貫く。



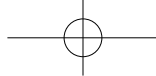
73年式のZ1は敢えてのZ2仕様で、サイドカバーに750を付けている。CRキャブにヨシムラ・カム、モリワキのショートモナカ管、ジェロニモ・ステップ、ゼファー750の足回りにPMCキャストホイールを履く。

KAWASAKI Z1

OWNER NAME : 荒井 康一さん (56歳)







小1の頃から父親とタンデム  
ハーレー&Z乗りが夢だった

全盛期のクルスや矢沢永吉の  
大ファンである父親から影響を受  
けた落合さんは、小1でカワサ  
キZ2をタンデムした思い出を覚  
えている。母親の弟もバイク乗り  
だったそうで、家族や親族など周  
囲の環境が彼をバイク好き青年に  
育てた。

16歳で原付のMBX50に乗  
り始め、高校を卒業して18歳で  
バイクとクルマの免許を同時に取  
り、まず憧れのハーレーダビッドソ  
ンに乗った。

「クルスと言えばハーレーとZ  
だったので、小6の頃から憧れて

ました。2年半前にハーレーから  
Z1へ乗り換えて、初めてツーリ  
ングに行った時は、エンジンのサ  
イクルに大きな違いを感じました  
ね」と話す。

バイク雑誌でウエマツ広告を見  
て問い合わせると、欲しいZ1の  
DVDを自宅に送ってもらえたの  
も嬉しかった。その動画を見て、  
幼少期に父親と観たクルスのラ  
イブDVDの記憶が蘇り、東京  
本店へ初来店し即購入を決めたの  
だった。

父親は今、火の玉Z1に乗っ  
ているらしい。この黒いZ1は当  
然クルス仕様を意識し、黒の  
ロックンロールがテーマだ。

## 父親の血を継いだ黒いクルス仕様



愛車Z1は75年式で、黒く  
ペイントをウエマツに依頼し  
た。本物のYBハンドル、W  
ディスク、KONIショック、ヨ  
シムラ管、赤い暴走ランプを  
光らせる。外装に合わせて、  
ファッションも黒でコーデする。

KAWASAKI Z1

OWNER NAME : 落合 雄大さん (25歳)







# 艶消しクリアのブラックボール外装が渋い

2年前に免許を取り初の大型  
雨にも負けず走る黒玉のZ1

黒いZ1乗りの古田土（コダ  
ト）さんは、栃木から雨の中を濡  
れながら八王子のウエマツ東京本  
店へ。奥様と2人の子供たちは、  
パパの四輪の愛車でもあるハイエ  
スに乗って来店した。

「とにかくロングツーリングが多く  
て、なぜか雨ばかり…雨男なん  
ですかね？」と笑う彼に、笑えな  
い雨男の編集担当だった（汗）。

高校時代に先輩達が乗っていた  
憧れのバイクに乗りたくて、子供  
達が大きくなってお金がかかる前  
に思い切って愛車を手に入れた。  
カッコ良く乗るために、27kgのダ  
イエットも頑張ったという。

絶版車に  
**魅**せられて

2年前にバイクの免許を取っ  
て、初の大型車をウエマツで初め  
て購入した。75年式のZ1は、  
70年代の当時感を残しつつ、長  
距離ツーリングでも壊れない愛車  
として理想的だった。バイク乗り  
のファッションはコスプレだと思っ  
ているので、当時の服装をイメージ  
して楽しんでいるそうだ。

今後は大切にZ1を乗り  
続けながら、愛息が欲しが  
る350SSと一緒にツーリングを  
楽しむ日を夢見ている。

ハヤシのキャストホイール、FCRキャブ、モリワキMレジェンド・モ  
ンスターのマフラーを鳴らす。愛息・大翔（ヒロト）くんや愛娘・  
紗来（サラ）さんと一緒に、ツーリングできる将来も楽しみだ。

## KAWASAKI Z1

OWNER NAME : 古田土 輝康さん (46歳)







ロックハート・タイプのビキニカウルに、APブレーキキャリパーと油圧クラッチ、社外マフラーを装着する。USアーミーバッグも装備し、ナンバーボルトに水中花、紫のホタル灯も夜な夜な光らせる。

## KAWASAKI KZ900

OWNER NAME : 高橋 淳さん (49 歳)

**3年前からリターンライダー  
大人な絶版バイク乗りの風格**

まだ若かりし16歳の頃に70年代のバイクブームが流行し、当時から憧れていたと振り返る高橋さん。3年前からリターンライダーとして、再び愛車を手に入れた。

絶版ウエマツで初めて購入したGPZ750Fを下取りに出して、2台目に76年式タイガー外装のKZ900を購入する。以前はRZR250も所有していたが、すでに売却済みだという。

特に旧車だからといってコタワリはないそうだが、自分の感覚で良いと思ったことは新旧を問わず取り入れているそうだ。

今夏は静岡・富士スピードウェイで開催されたアメフェスに参加し、大雨のZパレードも経験し

**大雨のアメフェスZパレードも思い出**

た。埼玉・秩父の単車ミーティングにも参加し、ツーリングがてら走り仲間と交流を楽しんでいる。

撮影インタビュー当日は、レスターのキャストホイール作業でウエマツに入庫していた。最後に、今後の予定を聞くと、「これからキャブレター、オイルクーラーの仕様を変更したい。次に欲しいバイクは、2スト3気筒ですね」と話す。







愛車は75年式のKZ1000A2で、毎日ウエマツへ通勤の足となる相棒。ウエマツのオリジナルマフラー以外は、純正オリジナルのまま。最近では昼休み時間を返上し、エンジン腰上のオイル漏れを整備中だ。

絶版車に  
魅せられて



## KAWASAKI KZ1000

OWNER NAME : 浦屋 弥生さん (46歳)



### ウエマツ東京本社メカニックの通勤車

好きな旧車を整備したくて5年前に入社し腕を磨いた

赤いKZに乗る浦屋さんは、ウエマツ東京本社の現役メカニックだ。約5年前に41歳で入社し、約3カ月後この愛車を購入したと話す。

「旧車を整備できるようになりたい。そう思つて転職を決めて、今では毎日Z系のエンジンを整備しています」

実は20代半ばから30代初め頃まで、某バイク店で8年間メカニックを勤めた経歴を持つ。その間にGPZ900、ゼファー、ドカティ、CB750FCを乗り継いだ。CB750FCはオー

リンズサス、CRキャブ、モリワキマフラーの仕様で再び乗りたいと言う。だが、以降の約10年間は、仕事やプライベートもバイクから離れて乗っていなかった。

こうしてウエマツ転職を機に絶版バイクへの情熱が再燃し、ただ1ファンとして乗りたかったKZを手に入れた。車体は60万円ほど、整備込み約100万円で購入できる。雨の日も風の日も、これから雪の日でも乗る通勤仕様なので、飾り気は一切なし。赤が色褪せたタンク、使い込んだシート、オイル手汚れのグリップが、毎日ガチで乗る相棒だと物語っている。